Try and Try Again

保原高校 商業科通信
第４号　2019.7.19 発行

自己ＰＲは、「探すもの」じゃなくて、「創るもの」

７月１日に求人票が公開されて、いよいよ今年も就職活動がスタートしました。３年生にとっては、緊張感を持って求人票に記載された情報を吟味し、興味をもった求人票を何枚もコピーして、家庭に持ち帰って検討していることと思います。一方、１・２年生にとっては、来年・再来年のことということで、まだ現実味を帯びていないかな。

入社試験にせよ、入学試験にせよ、人柄や意欲、志望動機を見るために、必ず面接試験が実施されます。その中で、「あなたの自己ＰＲをしてください」といった質問が必ずといっていいほど聞かれます。皆さんは、その質問にどのように答えますか。「ＰＲできるものなんて、いくら探しても自分には見つからない」と困ってしまう人もいるかもしれませんね。でも、それはあなただけではなく、誰にだっていえることです。

自己ＰＲは、「探すもの」じゃなくて、「自分で創るもの」です。もし結果を出している人が”才能”をもっているのだとすれば、それは「継続して努力できる」”才能”だと思います。アメリカのメジャーリーグで活躍したイチロー選手は、大きなことを成し遂げる人というのは、大きなことを１つやったのではなく、『誰にでもできることを、誰にもできないくらい続けてきた人』だと話しています。発明家のエジソンも電球を発明するまでに、１万回の失敗を重ね、それを失敗とは思わずに「上手くいかない方法がわかった」として実験を続けたそうです。１回や２回チャレンジすることは誰でもできます。でも失敗しても何百回、何千回と行うことは、誰にでもできることではありません。結果につながったのは、そのご褒美を神様がくれたのかもしれませんね。

皆さんがこれまで努力してきたことは何でしょう。結果が出たか出ないかということよりも、努力し続けたことが自分を成長させてくれます。ＰＲできることが思い浮かばない人は、今から何か努力をスタートしましょう。入社試験も入学試験も、皆さんにとってこれまでの人生の中で大きな関門だと思いますが、それは同時に自分を成長させる一つのきっかけです。この瞬間がこれからの人生のスタート地点だと思って、自己ＰＲできることを自分のために創っていきましょう。

商品開発に関する外部講師講話

３年生の流通ビジネスコースの「商品開発」の授業の中で、商品開発に関する外部講師講話が実施されました。７月１０日(水)には、ＪＡふくしま未来の方から「伊達市の農産物」「伊達市の６次化商品」、１２日(金)に保原町商工会女性部の方から「豆っこ汁の商品開発」のお話を伺うとともに、質疑応答が行われました。また、ＪＡふくしま未来の６次化商品である「桃の恵み」を試飲させていただくなど、教科書で学習する内容とはひと味違った、地域産品を使って実際に商品開発をするうえでの苦労や、仲間で協力しながらこれまでにないものを創り出していく楽しさなどを学ぶことができました。

この後の授業では、生徒一人ひとりが「商品企画書」を作成し、オリジナル商品を完成・発売することを目指していきますが、どちらの講義も大いに参考となる内容でした。

保原商工会婦人部の方の講義を熱心に聞く生徒

生徒の感想

今回、保原町商工会女性部の方の話を聞いて、商品開発をするときには「商品を作りたい！という強い思い」「仲間の賛同と協力」「楽しい雰囲気作り」が大切なのだと分かりました。今回の話を聞いて、久しぶりに豆っこ汁が食べたくなりました。

7月 商業科カレンダー

１４日(日)　ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ検定試験
１９日(金)　１学期終業式
２６日(金)　中学生１日体験入学

8月

２２日(木)　情報処理検定試験１か月前
２４日(土)　東北生徒商研大会視察(1-5 予定)
２６日(月)　２学期始業式

須永　博士
『たった一冊の詩集』より